

# アンサンブル

2016. 3. 1

No.35

内容について、ご意見、  
ご感想をお寄せください。

編集・発行 中野区男女共同参画センター 〒164-8501 中野区中野4-8-1 TEL(3228)8229 FAX(3228)8860

## ワーク・ライフ・バランスって興味ありますか？

中野区の平成 26 年度区民意識調査によると人権・男女共同参画事業について施策の評価は 1.9%、さらに区への要望についても 0.7%とかなり関心が少ないという感じを受けました。

しかし、区の施策の根本にあるのは「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」いわゆる**男女共同参画社会**ですよ？！

たとえば地域の活動も、防災対策も、区の経済、学校、スポーツなど、どれをとっても上記のことが考えられていないと施策としてはうまく進まなくなっていく。そのため、区民の方の意識がそこに行っていないということは区の広報不足ということであって・・・。

そこで！！今回アンサンブルでは、男女共同参画社会を考えるうえでよく言われる**《ワーク・ライフ・バランス》**という言葉の意味が、どれだけ正しく皆さんに伝わっているか？と疑問に思いテーマとさせていただきます。

この言葉は「**仕事と生活の調和**」を意味しており、働きながら私生活も充実させられるように職場や社会環境を整えることをさします。日本では人口減少社会の到来や少子化の進展を踏まえ、次世代の労働力を確保するため、仕事と育児の両立や多様な働き方の提供といった意味で使われることが多いようです。

「**仕事=会社勤め**」ではなく、家事も、介護も、子育ても仕事のひとつです。なぜならその業務を生業として働いている方がいらっしゃいますよね？

たとえば

家事・・・ハウスクリーニング・家事代行業者・お弁当配者

介護・・・介護施設職員

子育て・・・幼稚園や保育園、一時預かり保育の保育士 など…

**生活するのに必要なことはみんな仕事**なのです。

ワーク・ライフ・バランス

= **仕事と生活の調和**

## 男女共同参画区民意識実態調査について

平成 28 年度、男女共同参画区民意識実態調査を行います。これは「女性活躍推進法」（平成 28 年 4 月施行）や「第 4 次男女共同参画基本計画」（平成 27 年 12 月 25 日閣議決定）の策定を受け、今後改定作業をすすめる「中野区男女共同参画基本計画」の基礎資料とするため行うものです。中野区においての男女共同参画の推進に関する基本的な計画をより良きものとするため、調査票がお手元に届いた際にはご協力をよろしくお願いいたします。

## ある新聞記事から～メンタルの健康について～

最近気にかかっていることのひとつに「ウェルネスライフ」というフレーズがある。読んでいた新聞記事の中で「病気になっても病人にならない」という内容が眼にとまった。自分が今置かれている状況（現実）をあるがままに受け入れ適応しながらもライフスタイルを改善しながら良い状態に作り上げていく。つまり自分の生き方を受け入れ易い方法で変えていこうという心の持ち方とでもいうのだろうか。健康を表す health という言葉に換えてより総合的な新しい意味を持つ wellness という言葉には元々は健康の維持増進的な使われ方だったようだが、体の健康のみならず心の健康の持ち方などでも使ってみたら『ただ生きる』ではなく『よく生きる』となるのではないのか。

そこで気になった事件があった「介護施設での転落死」の 20 代の介護職員が起こした事件だ、彼の行動についてどうしても考えてしまうことがあった。確かに体や心、経済的にも大変なことが多い仕事ではあるが、個人として仕事に向かうための気持ちの準備が出来ていたのか。そこに潜んでいるのはメディアで言われてきた「規制緩和による働き方の変化の影響」や「労働に対する賃金の影響」があったのだろうか。そこには踏み止まれなかった現実問題への心の闇が占めていたのかもしれない。その代償はとてつもなく大きく失われた命は戻ることはなくなった。はたして正解はないのに自分に折り合いをつけて少しでも『よく生きる』心の持ち方を求めることが出来るのだろうか。我が身にも問いかけながらこのフレーズに関心を持っていきたいと思った。（編集委員 青地）

## 「日本、死ね！」って…

子どもの保育園の選考に落ちた女性の魂の叫びが話題になっている。賛同、共感の意を表すものから、馬鹿呼ばわりしたものまで様々なコメントが寄せられていて興味深い。

人は生きていく上で、それぞれの人生の展望と言うものがあるのだと思う。なかには、その時の状況で変更を余儀なくされることもある。そこで臨機応変に対応するには、ある程度精神的かつ経済的な余裕が必要になるだろう。余裕がないと壁の前で立ち往生することにもなりかねない。

たとえば、住む家を探すとしよう。何を一番優先するかは人によって違う。それは、賃料であったり、最寄り駅からの距離であったり、広さであったり、あるいは陽当たりであるかもしれない。すべてに納得がいけばそれはそれでラッキーだが、大抵はどれかについては妥協することが多いのではないだろうか。同様に人生においても、自分にとって何が一番大切なのか考えてみよう。家族、仕事、友人関係、趣味や夢など。

これからの時代を生きていくためには、私たちは一人一人が自分の人生にとって何が大切で、何が譲れないのかをしっかりと考えることが必要かと思う。勿論、確固たる覚悟をもって、すべてを手に入れたいと望むことも可能だ。だが、超人でもない限り本気で何かを手に入れたいのなら、何かを犠牲にしなければならない場面もある。それは、時間かもしれないし、経済的な余裕かもしれない。ただ言えることは、最後まであきらめないことだと思う。壁の前で無力感に打ちひしがれる前にやれるだけのことはやろう。

かつて読んだ本の中にこんな言葉があった。「泣いている暇があったら、怒れ！」

（編集委員 山口）

## 事業実施報告

女性活躍推進法成立！（2016年4月施行）

企業利益に直結！これからの経営術

講師：油井 文江氏（株）ゆいアソシエーツ代表取締役

平成 27 年 10 月 22 日実施

女性活躍やワークライフバランスにピンとこない方へ向けて、まずは利益に直結する人材づくりといった視点から語られた。今後の少子高齢化の進展に伴う労働力不足は男性だけでなく女性も活用するという人材枠の拡大や男性も女性も生き生きと働く社会を目指すことで人の生産性向上を図ることが解決の糸口になるという説明がなされ、既に取り組みを進めている企業の事例が紹介された。男性正社員中心の従来モデルが質・量ともに限界にきているとの指摘があり、労働力面、市場面で希少な切り札としての女性活躍推進が語られ、長時間労働が当たり前の社会では働き続けられないので、長時間労働体質と役割分業意識を改め、家庭と仕事が両立可能な土台となるワークライフバランスやダイバーシティの確立が不可欠と強調された。女性が活躍できる職場は誰もが働きやすい職場であり、今後直面する大介護時代を踏まえ、これからは“家の事情を会社に持ち込む”時代になることを延べ、この流れに合わせた組織づくりが求められていくことが語られ、女性が収益源となっている企業の取り組み事例の紹介も行われた。

私はこれで成功した！

～多様な働き方を実践した事業主に聞く～

講師：大越 賢治氏（株）ウィルド代表取締役

土肥 賢一氏

（プレゼンツコンサルティング（株）代表取締役）

平成 28 年 3 月 9 日実施

東京ワークライフバランス認定企業である 2 社からの事例紹介。プレゼンツコンサルティング（株）からは「飲食ビジネスにおける多様な働き方」をテーマとして、会社員時代～起業後の仕事スタイルなどが語られ、女性店長の積極的な育成や業務内容の改善事項、継続的な人材育成について紹介がなされた。（株）ウィルドからは『制度』より『風土』重視の取り組み事例紹介～働き方改革で社員のモチベーションも業績もアップ！～をテーマとして、週に 1 度就業時間内に実施されるおやつタイム、自分設定ノー残業デーといった面白取組みの紹介から、ワークライフバランスに取り組んだ結果、ワークライフバランス度と生産性がアップしたことが語られた。制度改革、風土改革はとてつもなく時間がかかること、短期で結果を求めずに長い目で取り組んでほしいとの話がなされた。その後、谷津かおり氏（株）オフィスエルール代表取締役）をコーディネーターとした対談において、失敗談や社内における意識改革についてなど、さらに踏み込んだ話を伺った。

### 4月から男女共同参画センターは区役所4階に移転します！

平成25年4月に中野駅南口の勤労福祉会館併設から区役所本庁舎内に移転した「男女共同参画センター」ですが、平成28年4月に区役所4階6番に移転します。

情報紙『アンサンプル』をはじめとした、男女共同参画関連の各自治体の広報誌や講座案内などを設置した情報コーナーも引き続きございます。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

### 男女共同参画週間関連行事について

毎年6月23日～6月29日は内閣府男女共同参画局が定めた「男女共同参画週間」です。  
今年のラインナップは…

#### 【講演会】

日時：平成28年6月29日（水）  
午後7時～8時半  
会場：産業振興センター3階大会議室  
講師：牛窪 恵 さん  
（マーケティングライター）

#### 【パネル展】

平成28年6月20（月）～24日（金）  
区役所1階 区民ホールにて

### 編集後記 from 区民編集委員

今年の一月初、あのスキーバス事故から二日後に新宿からバスで軽井沢に行きました。何とその日（1月17日）夜中から大雪となり、翌朝旅行会社が新幹線を手配し無事帰ることができました。再びの事故を回避するための会社側の配慮だったと思えます。二日前の事故がなかったらどうだったのか。いろいろ考えさせられました。が、初の北陸新幹線乗車を体験できた幸運と思うようにしたできごとでした。

編集委員 青地

今年度も終わりに近づきました。世の中はいいこともあれば、あまり歓迎できないこともありと本当に目まぐるしく変わっていくようです。しかし、そんな人間の営みとは関係なく春はやって来てくれます。かつて桜を見上げながら、“美しいものだけを見て穏やかに暮らせたらい”と言った私に、“美しいものを守るために戦うことも必要だ”と言った友人を思い出します。

編集委員 山口



### 中野区男女共同参画センター アンサンプル

〒164-8501 中野区中野4-8-1

区役所内 3階17番窓口

Tel 03(3228)8229 Fax 03(3228)8860

Eメールアドレス danjosenta@city.tokyo-nakano.lg.jp  
▶窓口 月～金曜日 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)